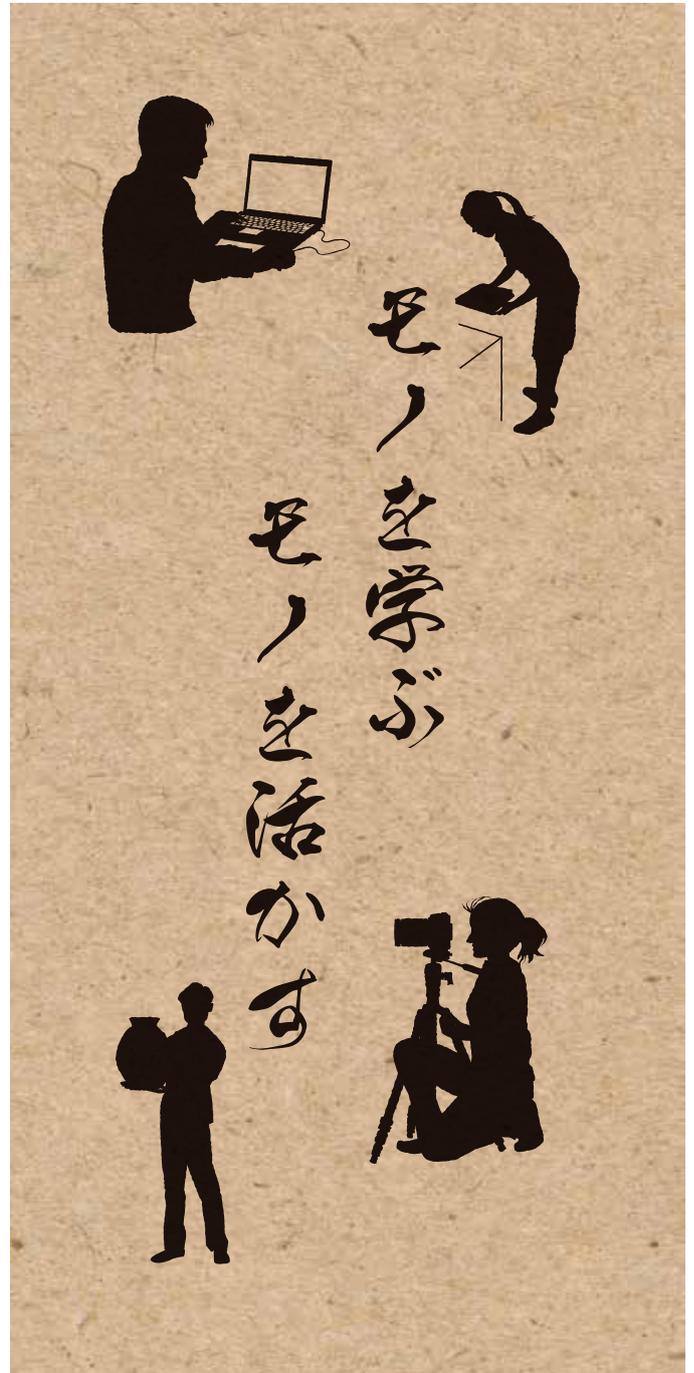


東北学院大学
博物館年報
平成27年度
2015

vol.7



目次

ごあいさつ	1
施設概要	2
展示 EXHIBITION	3
連携 COLLABORATION	6
講座 WORKSHOP	13
印刷物 PUBLICATION	14
事業 PROJECT	16
教育 EDUCATION	22
実績 RESULT	23

ごあいさつ

日頃は当館の活動に対し、並々ならぬご支援、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

東北学院大学は、2009（平成21）年11月に開館しました。当館は、大学の研究を社会にむけてご紹介する大切な窓口であるとともに、文化の持つ魅力や歴史を学ぶことの意義を、広く社会にむけて発信していく大学博物館です。そのために、次の三つの活動を重点的に行っています。

第一に、博物館学芸員資格課程を学ぶ大学生と、学芸研究員として当館に勤務する大学院生の教育です。人文学を学んで社会に出ていく学生たちには、地域文化を生かしていくことや異文化理解の重要性を、社会人として深く理解してもらいたいと考えています。また、当館の学芸研究員経験者からは、博物館学芸員や文化財担当者、埋蔵文化財技師として毎年1～2名を輩出しています。博物館の文化を担う人材育成は、当館の重要な課題です。

第二に、大学博物館の存在意義を高めるために、大学博物館同士の連携を進めています。今年度は、京都・大学ミュージアム連携や東北福祉大学との連携に

よって、東北歴史博物館で大規模な企画展を開催しました。学生たちは他大学の学生や、他大学の博物館学芸員資格課程担当教員らとの協働によって、展示を上げる機会を得ました。公立博物館とはまた一味違った博物館の魅力を発信していきたいと考えています。

第三に、東日本大震災からのミュージアムの復興に対する継続的な支援を行っています。大学博物館は、復興のための補助金の受け皿となりながら、学生たちの被災地での活動によって、独自の復興支援が可能であると考えています。文化財やコレクションの復旧作業への協力はもちろんのこと、復興過程で地域文化や歴史の価値が見直されている被災地にあって、大学博物館にしかできないことを模索しながら、活動を展開しています。

こうした活動を通じて、これからも学生たちとともに一歩ずつ着実に成長していきたいと考えています。ぜひ、今後とも当館へのご指導、ご協力を、よろしくお願いいたします。

東北学院大学博物館



施設概要

当館は、本学土樋キャンパスに隣接し、仙台市中心部の愛宕上杉通りに面して建つ大学博物館である。本学の教育、研究成果にかかわる学術的価値を有する資料を収集整理、保管、公開、普及し、本学の活動を社会に伝えることを目的としている。また、大学における博物館学芸員資格課程の実習施設としての役割を担い、実物資料を用いた学習機会を提供する。

博物館は鉄骨平屋建て建物面積は約300㎡である。展示室（180㎡）のほか、収蔵庫、実習室、事務室、多目的トイレ等を有し、24時間の空調、機械警備等によって貴重な資料等の管理環境を整備している。

組織は、館長のもと学芸員、事務職員、学芸研究員である。運営に関する事項を審議する機関として、東北学院大学博物館運営委員会を置いている。

郵便番号：980-8511

住 所：宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

電話番号：022-264-6920 FAX：022-264-6917

休 館 日：日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日

開館時間：午前9時30分～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

入 館 料：一般200円（減免措置あり）

※学校法人東北学院の役員・教職員・学生・生徒・園児・旧役員・旧教職員は無料。大学同窓生は、ホームカミング・デー等の館長の定める行事日は無料。未就学児、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校もしくは高等専門学校の児童、生徒又は学生、65歳以上の方、障害者基本法に定める障害者と介護者1名は無料。



展示 EXHIBITION

2015年の活動概要

今年度の展示は、企画展「流水は腐らず ―近世日本の身体観―」（平成27年4月25日～6月4日）、コーナー展「武家文書を読む」（平成27年11月13日～3月31日）、写真展「スレート屋根建築の魅力」（平成27年12月4日～12月25日）、企画展「古墳を掘る」（平成28年2月1日～常設化）の4回実施した。

企画展「流水は腐らず ―近世日本の身体観―」では、貝原益軒の『養生訓』に焦点を当て、近世の身体観や健康観をさぐる内容とした。参考として、漢方医学の教育のために作成された明堂図等も展示した。展示はすべて学芸研究員の指導のもと、博物館実習の学生を中心に行った。

コーナー展「武家文書を読む」では、近世史の日本史講読の授業で読み進めた境澤家文書の古文書を展示した。展示には、翻刻と解説文を添え、そこから見えてくる武家のくらしや当時の社会の仕組みについて解

説を加えた。

写真展「スレート屋根建築の魅力」では、本学土樋キャンパスに所在する宣教師館「デフォレスト館」の調査研究の成果公開とあわせて、建築写真家の菅野哲也氏による、宮城県雄勝産の天然スレートをを用いたスレート葺きの建造物の写真を展示した。東京駅や北海道庁といった有名な建築のみならず、宮城県では北上川流域を中心に、ごく普通の民家や倉庫、学校、神社などの庶民が利用する建築にスレートが葺かれており、本展示はその隠れた魅力を知っていただくことを目的とした。展示は博物館実習の学生を中心に行った。

企画展「古墳を掘る」は、本学歴史学科教授で当館館長の辻秀人のゼミナールによる24年間におよぶ発掘調査の軌跡を追う内容となった。調査とフィールドワークそのものの紹介に加え、貴重な遺物も展示し、大学の研究成果を普及する内容となった。展示は、考古学実習の院生・学生を中心に行った。



写真展「スレート屋根建築の魅力」関連イベントでの写真家と学生の交流

企画展「流水は腐らず —近世日本の身体観—」
平成27年4月25日（土）～6月4日（木）

平成27年度春期企画展

流水は腐らず

—近世日本の身体観—



著名な学者であった貝原益軒は、『養生訓』のなかで、中国の文献から引用して「流水は腐らず、戸ぼそ（蝶番）は錆ず」と記しています。流水も、戸の蝶番も、動いている間は健全であるが、水の移動が少ない池などの水は腐り、主を失った家屋の戸は錆ついて開かなくなってしまう……。貝原益軒の“養生”に対する考え方と当時の身体観が、とても分かりやすく示されています。

今回の展示は、東北歴史博物館で開催中の“話題”の特別展「医は仁術」に便乗(?)し、博物館学芸員資格課程の博物館実習の一環で、近世の医術書等を展示しました。近世日本の身体観から、現代の私たちは何を学ぶことができるか、ちょっと足を止めて考えてみませんか？

文学部歴史学科准教授 加藤幸治

展示資料

- 貝原養生訓 1712（正徳2）年
- 新刊十四経絡發揮 1631（寛永8）年
- 十四経絡發揮和解 1693（元禄6）年
- 明堂図 1723（享保8）年 ほか

開催期間:平成27年4月25日(土)～6月4日(木)

開館時間:午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで) 休館日:日曜日・祝日、授業期間外は土曜休館

入館料:一般200円 減免措置あり(要問合せ)、本学学生・教職員等は入場無料

交通案内:地下鉄「五橋」駅下車、愛宕上杉通を南方向に徒歩5分 障害者等用駐車場3台あり

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL 022-264-6920(直通) URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

写真展「スレート屋根建築の魅力」

平成27年12月12日（土）～平成28年1月21日（木）

東北学院大学博物館 写真展

スレート屋根の美

—建築写真家・菅野哲也の仕事—



宮城県では、北上川沿いから沿岸部にかけて、粘板岩の天然スレートを用いた民間建築がみられます。

小学校や寺社、民家、蔵など、幅広く用いられるのは他の地方にない特徴です。

この展覧会では、こうした建築の写真を長年にわたって撮ってこられた建築写真家・菅野哲也さんの作品から、スレート建築の美を再認識していただきます。

ちなみに、東北学院大学土樋キャンパスに残されている宣教師館「デフォレスト館」（国の登録文化財）の屋根には、かつてスレートが葺かれていました。今後の建造物修理も見据えて、この建築にスレートが葺かれていた意義や、ならびに宮城県におけるスレート産業の歩んだ近代について、今後も調査が進められています。調査研究には、本学工学部の櫻井研究室が中心的な役割を果たしています。

開催期間：平成27年12月12日（土）～平成28年1月21日（木）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで） 休館日：日曜日・祝日、授業期間外は土曜休館

入館料：一般200円 減免措置あり（要問合せ）、本学学生・教職員等は入場無料

交通案内：地下鉄「五橋」駅下車、愛宕上杉通を南方向に徒歩5分 障害者専用駐車場3台あり

東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL 022-264-6920(直通) URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

連携 COLLABORATION

2015年の活動概要

今年度の他館との連携による展示として、西南学院大学博物館（福岡県福岡市）との合同イベントを開催した。展示は、東北学院大学会場にて春季特別展「キリスト教の源流と東方伝播 ―受容と禁教、そして解禁―」（平成27年6月12日～8月6日）を、西南学院大学会場として特別展「東日本大震災と文化遺産 ―被災と復旧、そして文化創造へ―」（平成27年6月12日～8月4日）を実施し、その後、特別展「東日本大震災と文化遺産 ―被災と復旧、そして文化創造へ―」は、東北学院大学会場でも開催した（平成27年9月26日～12月25日）。

また、関連イベントとして以下の内容を実施した。

また、関連イベントとして以下の内容を実施した。

西南学院大学博物館×東北学院大学博物館@福岡

日時 7月5日（日） 10：00～17：00 場所 西南学院大学博物館

<午前の部>

*せいなん+とうほくこどもワークショップ〈入場無料〉「東北の“すべらない話”」

時間 10：00～12：00 場所 西南コミュニティセンター

<午後の部>

ミュージアム・セッションⅡ「大学博物館活動と学生とのかかわり」

時間 14：00～17：00 場所 西南学院大学博物館2階講堂

*講演「大学博物館活動と実践的教育」 講師／安高啓明（熊本大学文学部准教授）

*学生によるプレゼンテーション「被災地で展開する学生による移動博物館活動の報告」

秋田彩絵・門脇花珠・前田諒・森山西（東北学院大学4年・文化財レスキュー班）

*講演「みんなで活かす地域の文化資源 ―「牡鹿半島・思い出広場」の活動から―」

講師／加藤幸治（東北学院大学文学部准教授）

西南学院大学博物館×東北学院大学博物館@仙台

日時 7月11日（土） 13：30～15：00 場所 東北学院大学博物館

*講演「デフォレスト館の“屋根”から仙台の近代を眺めたら…」

講師／加藤幸治（東北学院大学文学部准教授）

*講演「日本キリスト教史のなかの東北」

講師／安高啓明氏（熊本大学文学部歴史学科准教授）

*せいなんおでかけワークショップ「おもしろセンス～手作りセンスをつくろう～」

日時 7月11日（土） 15：30～17：00 場所 東北学院大学博物館

WEXUS

2015年度 春季特別展

大学博物館共同企画 V



絆・連携

西南学院大学博物館

福岡市早良区西新3丁目13番1号 TEL.092-823-4785

2015.6.12|金|→8.4|火|

東日本大震災と文化遺産
—被災と復旧、そして文化創造へ—

|会場| 西南学院大学博物館特別展示室

|時間| 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) 日曜休館 |入場料| 無料

東北学院大学博物館

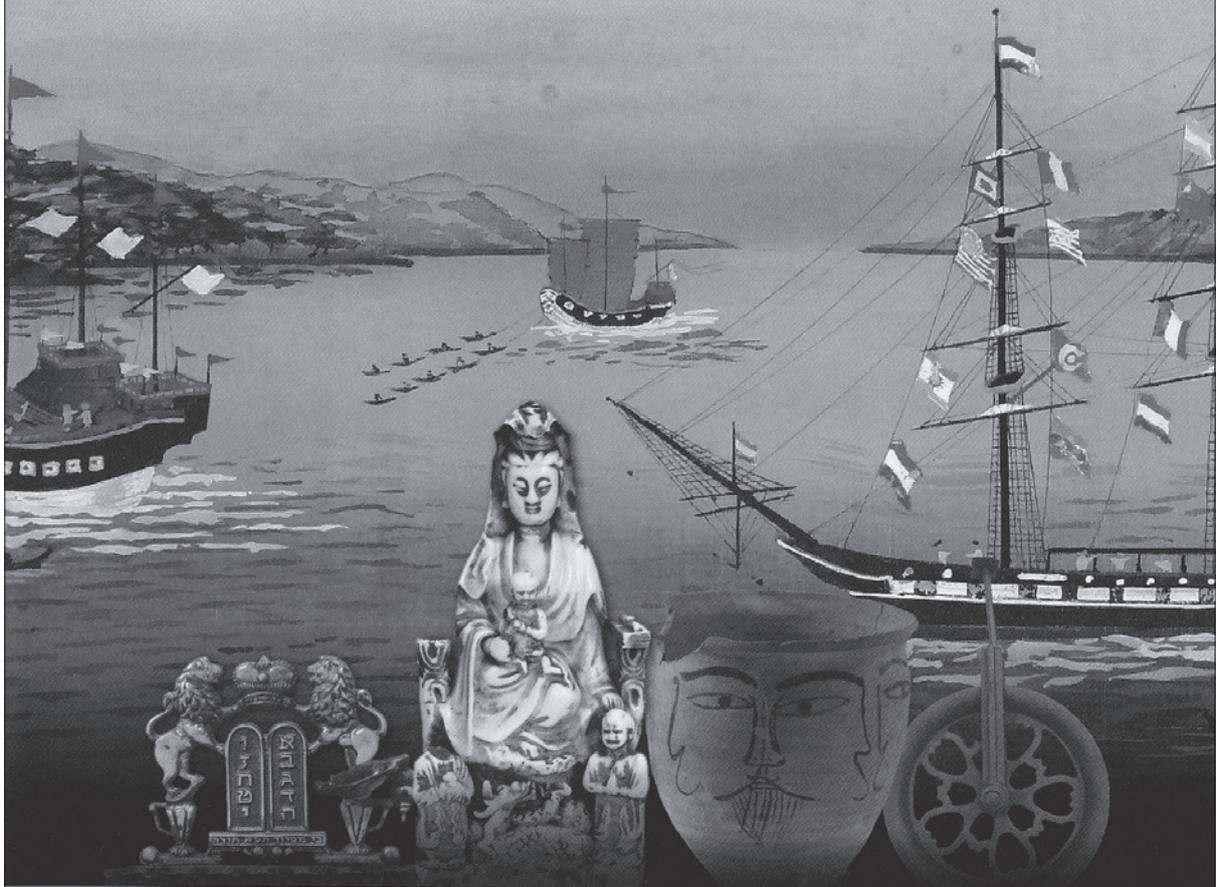
宮城県仙台市青葉区土樋1丁目3番1号 TEL.022-264-6920

2015.6.12|金|→8.6|木|

キリスト教の源流と東方伝播
—受容と禁教、そして解禁—

|会場| 東北学院大学博物館特別展示室

|時間| 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 日・祝日休館 |入場料| 一般200円



西南学院大学博物館 西南学院大学



東北学院大学博物館 東北学院大学

|主催| 西南学院大学博物館 & 東北学院大学博物館 |後援| 福岡県・福岡県教育委員会・福岡市・福岡市教育委員会・福岡市文化芸術振興財団

本展覧会は西南学院大学博物館・大学
同じキリスト教系の大学が連携し、所蔵する資料を相互に交換する

東北学院大学博物館

「東日本大震災と文化遺産－被災と復旧、そして文化創造へ」

Collaboration Exhibition of Tohokugakuin-Seinangakuin university museums.
"Great East Japan earthquake (March 11, 2011) and cultural heritages - Suffering, Restoration and Cultural creation -"

in 西南学院大学博物館会場

I ミュージアムの復興に向けて —学生主体による「石巻市鮎川収蔵庫」の文化財レスキュー活動— For the revival of museums. —The rescue by students of cultural assets of repository in Ayukawa, Ishinomaki City—

東日本大震災では、地震と津波の直接の被害によって多くのミュージアムや収蔵施設が壊滅的な被害を受けました。東北学院大学博物館は「石巻市鮎川収蔵庫」で被災した約4000点の考古・民俗資料を受入れました。学生たちの手による泥落としや脱塩、修復、整理作業を経て、現在は仮収蔵庫でミュージアム復活の日を静かに待っています。展示では保全作業とともに、学生たちが被災地で取り組んでいる移動博物館活動もあわせて紹介します。



II 伝統工芸の復興に向けて —国の伝統的工芸品「雄勝硯」と国産天然スレートの現在— For the revival of traditional crafting. —The state of Japanese traditional crafting, "Ogatsu-suzuri" and domestic natural slate—

石巻市雄勝地区は東日本大震災の津波で、極めて甚大な被害を受けました。ここは、国の伝統的工芸品「雄勝硯」の産地であり、東京駅など日本を代表する近代建築の屋根材に用いられた国産天然スレート材：玄昌石の産出地です。職人たちは、道具を拾い集めるところから再出発し、様々な支援を受けて仮設の作業所や事務所で作成を始めています。現在は、クールジャパン海外戦略にも事業を展開し、産地復興への道の模索が続いています。



III 近代建築の価値再発見に向けて —仙台の宣教師館「デフォレスト館」(国の登録有形文化財)の調査— To rediscover value of the modern architecture —Investigation into "Deforest building": Western-style building of propagators in Sendai City, which is registered for tangible cultural property in Japan—

東北学院大学土樋キャンパスには、国の登録有形文化財の建造物群があります。そのひとつ明治の洋館「デフォレスト館」は、東日本大震災の揺れで大きな被害を受けました。震災後、保存修理のための調査が行われ、技術や意匠の特色や建築当初の姿が明らかになってきました。この宣教師館の屋根には、第二部で紹介した美しい雄勝スレートが葺かれおり、今後の修理過程においては、スレート葺き技術継承の場としても期待されています。



絆・連携



2015年度 春季特別展 大学博物館共同企画Ⅴ

博物館共同企画シリーズ第5弾です。

「nexus(絆、連携)」と題した合同の展覧会を同時開催いたします。

US

西南学院大学博物館

「キリスト教の源流と東方伝播—受容と禁教、そして解禁」

The Origin of Christianity and the Propagation to the Eastern world
: Reception, Prohibition, and Removal of the Prohibition

in 東北学院大学博物館会場

I キリスト教の起源 —ユダヤ—

The Origin of Christianity. —Judaism—

ユダヤのひとびとの生活で使用される様々な祭具は、しばしば美しく豪華に飾られ、ユダヤの美術工芸品とされています。それらをとおして、古代から現代まで受け継がれるユダヤの生活や多様なユダヤの歴史に迫ることができます。

メノラー
(西南学院大学博物館蔵)

II キリスト教の広まり

The Spread of Christianity.

キリスト教は、当初は西欧や東欧を中心として信仰され、早くからアフリカ大陸にも伝わりました。15世紀に始まる大航海時代を経ると、西欧による植民地支配の対象となった南米やアジアにも布教が開始されています。

それらの地から生み出された祈念画、祈念像、祈祷書などを紹介します。

無原罪懐胎の聖母マリア像
(西南学院大学博物館蔵)

III 日本キリスト教史 —光と影—

Japanese history of Christianity. —The Bright and the Dark side—

1549年、フランシスコ・ザビエルがキリスト教を布教するため来日し、各地でキリスト教が受容され、南蛮文化が開花しました。しかし、日本では禁教の世になり、キリシタンたちは創意工夫して信仰を保ち、祈りを捧げていました。

また、交易相手が変わったことで、南蛮文化にかわり紅毛文化が芽生え、日本に新たな時代が訪れました。

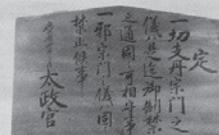
紅毛人破屏
(西南学院大学博物館蔵)

IV 禁教解禁に向かって

To Remove the Prohibition of Christianity.

日本では対外列強の圧力により、禁教政策の維持は困難となっていき、1858年に日米修好通商条約を締結すると、キリシタン政策の転換を迫られました。

1874年にキリシタン制札が撤去されてキリスト教信仰が許された後、外国人宣教師らが訪れ、200年以上上の時を経て布教が再開されていくことになります。

キリシタン制札
(西南学院大学博物館蔵)

特別展関連イベント

合同イベント(入場無料・申し込み不要)

せいなん+とうほく こどもワークショップ「東北の“すべらない話”」

日 時 | 7月5日(日) 午前10時~正午
 場 所 | 西南コミュニティーセンター
 内 容 | 東北学院大学の学生が博物館の取り組みなどをブースごとに楽しくお話しします。
 西南学院大学の学生のブースでは、七夕飾りをつくります。

ミュージアム・セッションII 「実学教育の拠点—大学博物館の役割と活動報告」

日 時 | 7月5日(日) 午後2時~午後5時
 場 所 | 西南学院大学博物館2階講堂

【第1部】 題 目 / 「大学博物館活動と実践的教育」
 講 師 / 安高啓明氏(熊本大学文学部准教授)

【第2部】 ①学生によるプレゼンテーション
 題 目 / 「被災地で展開する学生による移動博物館活動の報告」
 報告者 / 秋田彩絵さん・門脇花珠さん・前田諒さん・森山西さん(東北学院大学4年・文化財レスキュー班)

②講演
 題 目 / 「みんなで活かす地域の文化資料 —「牡鹿半島・思い出広場」の活動から—」
 講 師 / 加藤幸治氏(東北学院大学文学部准教授)

せいなん おでかけワークショップ「おもしろセンス —手作りセンスをつくろう—」

日 時 | 7月11日(土) 午前10時~正午
 場 所 | 東北学院大学博物館
 内 容 | 白紙の扇子台紙に展示資料をスケッチしてオリジナルの扇子を完成させます。

公開講演会

日 時 | 7月11日(土) 午後1時30分~午後3時
 場 所 | 東北学院大学博物館

【第1部】 題 目 / 「デフォレスト館の“屋根”から仙台の近代を眺めたら…」
 講 師 / 加藤幸治氏(東北学院大学文学部准教授)

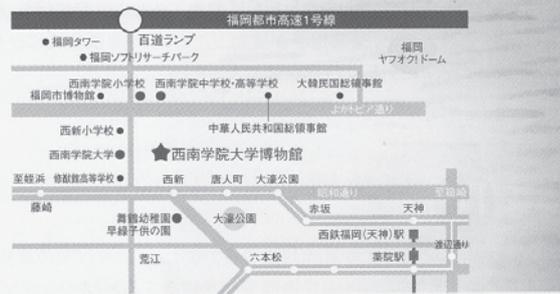
【第2部】 題 目 / 「日本キリスト教史のなかの東北」
 講 師 / 安高啓明氏(熊本大学文学部准教授)

.....

【ミュージアム・トーク】(午後3時~午後3時30分 in 東北学院大学博物館)
 講 師 / 内島美奈子氏(西南学院大学博物館学芸研究員)

アクセス

地下鉄	福岡空港 → 西新駅下車	約17分
	博多駅 → 西新駅下車	約12分
	天神 → 西新駅下車	約8分
*地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分		
バス	博多駅バスセンター → 修猷館前	約35分
	天神 → 修猷館前	約20分
*修猷館前バス停から徒歩5分		
タクシー	福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学	約25分
	博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学	約20分
	天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学	約15分



西南学院大学博物館

博物館事務室 / TEL.092-823-4785 〒814-8511 福岡県早良区西新3丁目13番1号
 URL www.seinan-gu.ac.jp/museum/



東北学院大学での合同イベント



西南学院大学での合同イベント

東北学院大学博物館×西南学院大学博物館

こどもワークショップ

大学生のおにいさんおねえさんとあそぼうよ！

金魚ねぶたをつくらう！
夏蟲のおもちゃを紙でつくらう！

博物館キッズニア！おしごと体験①
たくほんをとろう！土器(どき)のもようをうつそう！

博物館キッズニア！おしごと体験②
テグスとめ！焼しんでたおれないうように、こていしよう！

七夕がざり！
わがいごとをわがいで、家にがざらう！

参加費 無料！！

7月11日(土)
10:00~11:30
東北学院大学博物館

手作りセンスづくり！
種を播いてオリジナルの扇子(せんす)づくり！

また、沖縄県立埋蔵文化財センターへの展示協力を行い、企画展「被災文化財を守る一東日本大震災における文化財の救援保護活動一」を、沖縄県庁 県民

ホール会場（平成27年8月31日～9月4日）と、沖縄県立埋蔵文化財センター会場（平成27年9月8日～10月4日）で実施した。



←観音堂石仏
【目的：文化財施設の災害復旧】
日本3大摩崖仏のひとつ、大悲石仏
で初の発掘調査を実施
(南相馬市教育委員会提供)



中才遺跡→
【目的：災害公営住宅建設】
縄文時代の東北の塩づくり見学
(南相馬市教育委員会提供)



←【文化財レスキュー】
被災した文化財は海底のヘドロ、
雑菌類、塩分にまみれている
(東北学院大学提供)

東日本大震災の被災地では、復興事業に伴って埋蔵文化財の発掘調査が必要となる場合があり、沖縄を含め全国一丸となって埋蔵文化財の専門職員が派遣され震災復興に当たっています。

また、今回の震災で被災した博物館・資料館や収蔵庫では、被災した文化財のレスキューが、今なお続いています。

震災からの復興を一日も早く成し遂げ、被災者の生活再建と、地域の歴史・文化の再発見を両立するため、文化財の防災について考える契機になるよう、パネル展を開催します。

平成27年8月31日（月）～9月4日（金）

沖縄県県庁 県民ホールA

平成27年9月8日（火）～10月4日（日）

沖縄県立埋蔵文化財センター

【お問い合わせ】

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県西原町字上原 193-7

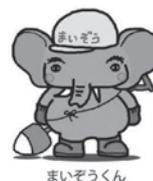
電話 098-835-8752 FAX 098-835-8754

○開館時間：午前9時～午後5時（入所は午後4時半まで）

○休所日：月曜日・祝日（月曜が祝日の時は翌日休）



沖縄県立埋蔵文化財センター パネル展
東日本大震災の復興支援
埋蔵文化財の発掘調査と文化財レスキュー



講座 WORKSHOP

大学博物館では、近隣の小学生等を対象として、クリスマスイベント「手作りクリスマスツリー」(平成27年12月22日)を開催した。企画運営は、博物館実習の学生を中心に行った。また、仙台市富沢遺跡保存館「地底の森ミュージアム」で開催したパネル展「大学生

による文化財レスキュー —復旧期5年間でできたこと—の関連イベントとしてのワークショップ「まぼろしのトミザワトウヒ・ツリーを作ろう」(平成28年1月31日)を開催し、小学生親子50名が参加した。企画運営は、民俗学実習の学生を中心に行った。

仙台市富沢遺跡保存館×東北学院大学博物館 パネル展

大学生による文化財レスキュー

—復旧期5年間でできたこと—

2011年の東日本大震災から間もなく5年が経過します。震災後の文化財レスキュー活動には、一般の市民ボランティアや大学生が、様々なかたちで文化財の保全作業に携わってきました。

このパネル展では、東北学院大学における作業を紹介しながら、文化財のプロでない大学生が、専門家の指導を受けながらどのように保全作業を展開していったかをお伝えします。

プロに委ねるべき仕事と、市民が参画しうる仕事を、どのように組み合わせられるかを通じて、今後の文化財防災について考える機会となればと思います。



期間:平成28年1月19日(火)~2月4日(木)

場所:地底の森ミュージアム 研修室



まぼろしの…「トミザワトウヒ」ツリーづくり

想像しながら作ろうよ! 絶滅した氷河期の木に集うシカと旧石器人

日 時:平成28年1月31日(日)
:午後1時30分~3時30分
場 所:地底の森ミュージアム 展望ラウンジ
対 象:幼児から小学生 20名
参加費:無料(入館料がかかります)

「ひょうがき」の森には、今はせつめつしたトミザワトウヒが立っていた! 2まん年まえの森と、生きもの、そのじだいをいきた「きゅうせつぎん」たちのことをそうぞうしながら、じぶんだけのツリーを作ろう。
デコって、楽しいだけじゃなく教室です。

開館時間:午前9時~午後4時45分(ただし入館は午後4時15分まで) 期間中の休館日:1/25(月)、28(日)、2/1(月)
入 館 料:一般400円 高校生200円 小・中学生100円 *「どこでもパスポート」対応
交通案内:地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分/JR長町駅より西へ徒歩約20分/東北自動車道仙台南I.C.より約7km
問合せ先:東北学院大学博物館 〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1 TEL:022-264-6920(直通)

地底の森ミュージアム (仙台市富沢遺跡保存館)

〒982-0012 仙台市太白区長町南4丁目3-1

TEL: 022-246-9153 FAX: 022-246-9158 E-mail: t-forest@coral.ocn.ne.jp

印刷物 PUBLICATION

収蔵資料図録『コレミテ VOL.1』の作成

今年度より、収蔵資料図録の作成をはじめた。この収蔵品図録は、単なる目録や図録ではなく、資料紹介や見どころなどを一点見開き二ページで解説するもので、毎年12点ずつ紹介する冊子をシリーズ化する。タイトルの『コレミテ』は、考古学、歴史学、民俗学、展示のそれぞれ頭の一字をとった。第一号となる『コレミテ VOL. 1』には、以下の資料を掲載した。

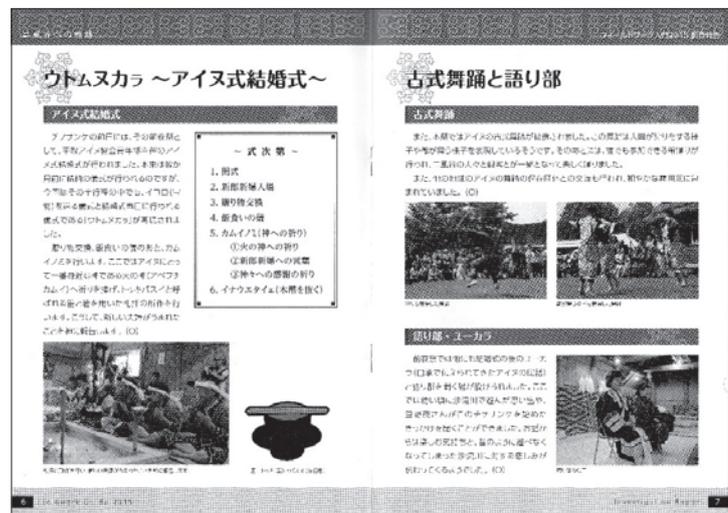
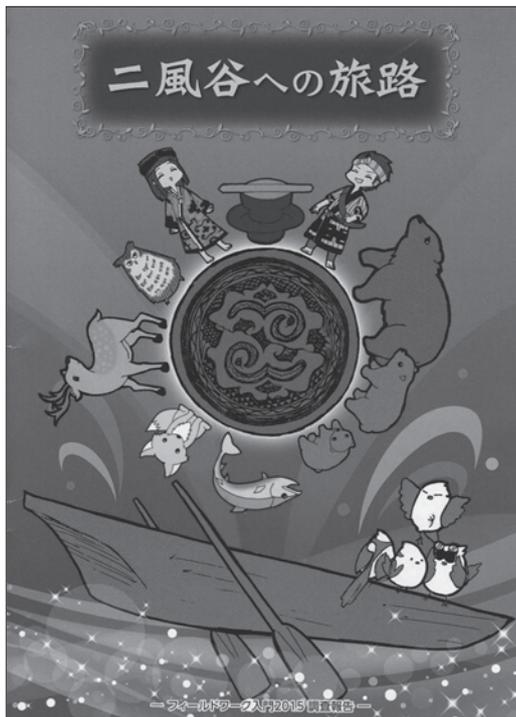
- 考古資料：墨書人面土器
- 歴史資料：伊達綱村領知朱印状・仙台藩租税要略・奥州仙台萩・塩竈詣・海国兵談
- 美術資料：竹二雀図・養老孝子図・松島之詩
- 民俗資料：おしらさま・切込焼徳利・堤焼壺



フィールドワーク報告展示パンフレット『二風谷への旅』の作成

歴史学科2年生開講科目「フィールドワーク入門」では、北海道沙流郡平取町二風谷で開催されるアイヌの祭り「チプサンケ」に毎年参加している。今回は、

今年度参加の学生が編集したパンフレット『二風谷への旅』を作成した。



事業 PROJECT

*文化庁：地域の核となる美術館博物館支援事業

「被災文化財を活用した津波被災地での文化創造事業」

<p>現状の 課題分析</p>	<p>東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた石巻市鮎川収蔵庫資料は、被災文化財等救援事業により文化財レスキューされ、東北学院大学博物館に一時保管された。その後、学生によって保存処理・修復・整理がなされ、平成27年2月に石巻市教育委員会に返却されるに至った。この過程で同館では、被災地である石巻市鮎川等において8回の移動博物館を行い、展示を通じて民俗資料の使用法や製作方法などのメタデータを復旧する活動を、文化庁補助金「被災ミュージアム再興事業」にて行ってきた。</p> <p>嵩上げ工事や高台移転などの復興が少しずつ進む被災地においては、新たな地域文化創造のための博物館活動が不可欠であるが、文化施設の復旧の見通しは不透明である。中核館は、仮設住宅自治会、被災地の各種市民団体等から地域の文化財を活用した活動の継続を要望されている。</p>
<p>事業目的</p>	<p>本事業は、文化財レスキューされ修理を終えて返却された被災文化財を活用し、被災地における地域文化の再認識と復興する地域における新たな文化創造のための核となる博物館活動を行うことを目的とする。</p> <p>津波の被災地では、多くの集落が甚大な津波の被害を受け、かつての日々の生活やくらしの営みの蓄積を伝えるものは、レスキューされた被災文化財以外はほとんど残っていない。生活環境の復旧が徐々に進んできた現在、これからの地域社会をどのように築いていくかが重要となっている。本事業は、被災文化財を活用した博物館活動を通じて、過去の地域の文化や人々の営みとの連続性や、アイデンティティの確認、地域の魅力再発見などの文化創造活動を活性化させていくことを目指す。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業では、被災ミュージアム再興事業での活動を発展させるかたちで実行委員会を編成し、被災地での被災文化財の展示を含む移動博物館活動を実施する。</p> <p>第一回は、5月に石巻市鮎川の鮎川小学校仮設団地の集会所を舞台とした小規模な活動を実施する。内容は仮設住宅自治会の要望に応じるかたちで、展示とワークショップで構成する。</p> <p>第二回は、8月に石巻市鮎川の仮設商店街での中規模な活動を実施する。2012年から継続的に行ってきた活動を本事業に継承し、市民団体や仮設商店街等との連携によって実施する。</p> <p>第三回は、12月に石巻市街地での大規模の展示と活動を行う。文化財レスキューと被災地での文化創造活動の紹介、被災文化財の展示とワークショップ等で構成する。</p> <p>これら移動博物館により、被災文化財を活用した津波被災地での文化創造活動を展開する。</p>

<p>構築しようとするモデル</p>	<p>東日本大震災の文化財レスキュー活動は、現在は本格復旧までの仮収蔵の状況にある。そのなか、被災文化財を活用した事業は、文化財レスキューそのものを紹介する展示等に留まっており、復興していく地域の文化創造や地域文化の再認識にかかわる博物館活動は極めて低調である。中核館の東北学院大学博物館は、被災地において展示の形式をとりながら民俗文化財のデータ復旧のための調査活動を継続的に行ってきた。この活動を通じて、地域の様々な団体や諸分野の研究者との連携・協働の枠組みが構築された。本事業では、これまでの活動における連携をもとに実行委員会を組織し、活動をさらに発展させることにより、被災地における復興期の活動のモデルを提示しようとするものである。</p>
<p>事業における中核館の役割</p>	<p>本事業における中核館である東北学院大学博物館は、東日本大震災の被災地である牡鹿半島地域における文化創造活動として、移動博物館活動を企画・運営する。活動自体は、文学部歴史学科の大学生が実施し、中核館はこれを総括・監督する。活動で活用する被災文化財は、所有者である石巻教育委員会と協議しながら行い、中核館の責任のもと資料の管理にあたる。被災地での活動では、市民団体、ボランティア団体、介護福祉施設、仮設住宅自治会、仮設商店街等と、個別に打ち合わせを重ねながら、活動そのものへの積極的な住民参加を促し、移動博物館を協働のモデルとして定着させる。全体の事務・経理は、東北学院大学博物館において行う。</p>
<p>実施した事業</p>	<p>平成27年6月21日 「牡鹿半島・海のくらしの風景展」 於：石巻市牡鹿公民館 平成27年8月9～12日 「金華山と鮎川浜の歩んだ近代」 於：おしかのれん街（復興商店街）前広場 平成28年2月7～11日 「牡鹿半島・思い出広場」 於：イオンモール石巻</p>

博物館支援部

牡鹿半島 思い出広場

OSHIKAHANTOU・OMOIDE HIROBA

一人ひとりの
くらしの風景が
みえてくる

入場 無料

期間 **2/7日-11日** 祝
平成28年 **午前10時～午後5時**

場所 **イオンモール石巻 海の広場** 〒986-0866 宮城県石巻市西平4丁目104番地

主催 **東北学院大学博物館** (仙台市青葉区土樋一丁目3-1 TEL.022-264-6920)

2月11日はイベント開催!

緑の広場
ステージイベント

11:00
ayu cafe



14:00
子ども向けイベント
**"MINGUバトル
・アルティメット"**

プレゼント!!



展示内容

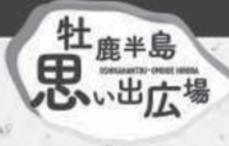
東北学院大学では、東日本大震災後に展開された国の文化財レスキューで、旧牡鹿町の文化財を担当し学生たちがクリーニングや脱塩作業に取りくんできました。この活動と並行して、被災した文化財を地域のみなさんに見ていただくために、展覧会をこれまで10回牡鹿公民館やサンファン館等で実施してきました。今回のイオンモール石巻での展示は、昨年度に続き2回目の開催となります。

今回は、半世紀前の牡鹿半島のくらしの古写真や資料30点あまりを展示し、文化財レスキュー活動から明らかになった牡鹿半島の歴史や文化を紹介します。また、牡鹿半島で使われてきた昔のくらしの民具を、子どもたちに楽しみながら観覧していただくイベントも開催します。昨年度のステージイベントで好評を博した Ayu Café (鮎カフェ) では、明治時代の牡鹿半島を写した貴重な写真を紹介しながら、昭和と三陸津波以前のすがたに思いをめぐらせる内容となっています。

牡鹿半島にゆかりのある方はもちろん、多くのみなさんに三陸の魅力を再発見していただくきっかけを提供できればと思っています。

東北学院大学文学部歴史学科 准教授 加藤 幸治

わたしたちの“こころ”を救う文化財レスキュー



東北学院大学 presents

牡鹿半島・海のくらしのミュージアム

2月11日(祝)

緑の広場 (ステージイベント)

● 11:00~11:40

な つかしい牡鹿半島の風景を楽しむ
ayu café 鮎カフェ

牡鹿半島の昔の写真を紹介しながら、かつての浜のくらしに思いをはせます。今回は未公開の明治時代の鮎川浜の様子を写した貴重な写真を紹介します。

● 14:00~14:40

あ つまれ子どもたち！
MINGUバトル・アルティメット

昔のくらしで使われた民具について親しんでもらう子ども向けクイズ・イベント。クイズでゲットしたバトルカードを使って MINGU マスターとバトルに



MINGUバトル・アルティメット
(せんだいメディアテークでの様子)

海の広場 (展示とワークショップ)

● 13:00~15:00

ワ ークショップ
つくってみよう! 「石巻ことバッジ」

石巻らしい“風景”や“ことば”といえば、どんなことが思い浮かびますか？ そんな石巻らしさを、缶バッジにしてみるワークショップです。文化財の展示設計企業・乃村工務社との協働プログラムです。



ワークショップ
(昨年度の様子)



店内マップ



交通案内



- 車の場合 三陸自動車道 石巻河南IC すぐ
- 鉄道の場合 JR 仙石線 蛇田駅より徒歩 20分
- バスの場合 JR 石巻駅よりバス。宮城交通ホームページにてご確認ください。

文化庁・地域の核となる美術館・博物館支援事業

文化財レスキュー企画展



金華山と 鮎川浜の歩んだ近代



一人ひとりの
くらしの風景が
みえてくる

入場
無料

平成27年
期間 8/9(日)~12(水)

9日は13:00~16:00、10-11日は10:00~16:00、12日は10:00~14:00

場所 牡鹿公民館(牡鹿保健福祉センター「清風館」)と
おしかのれん街前テント(石巻市鮎川)

主催 東北学院大学博物館
牡鹿半島・思い出広場実行委員会

お問合せ 東北学院大学博物館
仙台市青葉区土樋一丁目3-1 TEL.022-264-6920

展示内容

東北学院大学では、東日本大震災で被災した牡鹿半島の文化財等の保全作業に取り組んできました。昨年度末にはその作業を終え、文化財を石巻市教育委員会に返却しました。

今年度からは、レスキューされた文化財等を使った小さな展覧会を開催していきたいと思っています。今回は、聖地・金華山への信仰や生活のかかりを示す民具や古写真、モノクロの映像を展示します。鮎川浜をはじめとする牡鹿半島の浦々では、金華山に豊漁や家内安全の願いをかけて祈ってきました。また、鮎川浜からは金華山への渡船が営まれ、金華山観光の玄関口としてにぎわってきました。

かつてのくらしのイメージを思い起こしてもらいながら、復興していく地域がもともと持っていた文化に誇りを取り戻してもらおうきっかけにしたいだければと思います。

東北学院大学文学部歴史学科 准教授 加藤 幸治

文化財レスキュー活動の紹介



東北学院大学博物館は、東日本大震災で被災した石巻市鮎川収蔵庫の民俗・考古資料など、牡鹿半島の歴史と文化を物語る様々な資料を一時的に保管してきました。資料は歴史学科の学生が中心となり、二酸化炭素殺虫や脱塩処理、クリーニング、資料整理などを進めてきました。

資料の情報を収集する活動



これまで、10回にわたって保存処理が終わった文化財を展示する『牡鹿半島のくらし展』を開催してきました。今年の6月21、22日には、牡鹿公民館で展示を行いました。来館していただいた地域の方々に展示を見てもらいながら、幅広い世代の方々にかつての牡鹿でのくらしといった、様々な思い出を学生に語っていただいています。

イベントいろいろ

ayu café
鮎カフェ

昔の写真や映像を見ながら、
かつての鮎川について
語り合ってみませんか？

緑日
コーナー

ちびっこたち集まれ！
やさしいお姉さん・お兄さんと
一緒に遊ぼう！
景品もあるよ！

のれん街前におそびにおいで！

無料配布！



東北学院大学
文化財レスキューチーム
公式！キャラクター
まんぞくん



鮎川の高写真を多数収録した
『鮎川溪の賑わい—よみがえる60年前の高写真帖—』
(東北学院大学博物館編)を、会場で無料配布します。
第二弾は11月刊行予定・・・coming soon!

ACCESS



教育 EDUCATION

教育活動

* 博物館実務実習の実施

実務実習として本学3,4年生を受け入れ、博物館資料の扱いから展示の企画、模擬展示の製作などを行う。

* 大学院生の学芸員教育

大学院生を学芸員としてスタッフに加え、展示資料の準備や基礎データ作成、展示作業、来館者への解説を通して、学芸員としての実務経験を積ませる。

* 学部生の学芸員教育

博物館実習・考古学実習履修学生が展示作業等にかわり、実践的な実習の機会を提供する。

* 仙台宮城ミュージアムアライアンス

仙台宮城ミュージアムアライアンスの関連イベント等にて、博物館連携を図るとともに、学生は博物館の職業人との協業によって、学芸員の仕事への深い理解を目指す。

SMMA
仙台宮城ミュージアムアライアンス

ミュージアムユニパス

～すてき・ふしぎ・おもしろい～

仙台的さまざまなミュージアム
15館がメディアテークに大集合!
もっと楽しく、もっと学べる2日間です。

- トークとイベントの広場
- 体験の広場
- 展示の広場
- ミュージアムグッズショップ

2015
12.18 [Fri] 13:00 → 19:00 | **19** [Sat] 11:00 → 18:00
せんだいメディアテーク 1階 オープンスクエア 入場無料

会場アクセス
1 場 歩 1 仙台駅より徒歩20分
2 地下鉄 仙台駅より徒歩20分、仙台駅より徒歩20分、仙台駅より徒歩20分
3 バス 仙台市営バス 仙台駅西29番(庄内線行)のりばから
「定禅寺通市役所前駅通交通局大通駅」行で約10分、メディアテーク前下車。

主催 仙台・宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)
お問い合わせ 仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL.022-713-4483

ミュージアムユニパス

～すてき・ふしぎ・おもしろい～

SMMAに参加している15館のミュージアムが、「とっておき」とともにせんだいメディアテークに大集合!

ミュージアムの「すてき・ふしぎ・おもしろい」各館ならではのプログラムに参加して、「知る」ことの楽しさをぜひ体験してください。

SMMA参加館

- 社会福祉法人共生福祉会 福島美術館
- 地産の森ミュージアム
- せんだいメディアテーク
- 宮城県立博物館
- 宮城県立歴史館
- 宮城県立自然史博物館
- 宮城県立考古学博物館
- 宮城県立民俗学博物館
- 宮城県立文学館
- 宮城県立歴史資料館
- 宮城県立考古学資料館
- 宮城県立民俗学資料館
- 宮城県立文学資料館
- 宮城県立歴史資料館
- 宮城県立考古学資料館
- 宮城県立民俗学資料館
- 宮城県立文学資料館

- トークとイベントの広場
- 体験の広場
- 展示の広場
- ミュージアムグッズショップ

★ トークとイベントの広場

18日 [Fri]	19日 [Sat]
14:00 みんなが気になる飼育動物のふしぎ 14:45 仙台市立自然史博物館×仙台市八木山動物公園	13:00 ミュージアムのとっておきの話「うごく編」 仙台市歴史民俗資料館、みちのく博物館、宮城県立考古学博物館
15:15 ミュージアムのとっておきの話「食べる編」 地産の森ミュージアム、仙台市歴史民俗資料館、仙台市立自然史博物館	15:00 ケイズ「再発見! 仙台の歴史(前)」 仙台市歴史民俗資料館
16:30 MINGUバルトルディメット 17:30 東北学院大学博物館	16:30 ミュゼバルトルディメット 17:30 せんだいメディアテーク
18:15 シンデレラの原型～ガラスの靴、灰の雪姫～ 19:00 小川知幸(東北大学総合学術博物館助教授)	

★ 体験の広場

18日 [Fri]	19日 [Sat]
13:00 和紙しぼ+合羽作り+紙きり遊び ※各14名(14歳未満) 17:00 仙台市立自然史博物館×東北学院大学附属工芸館×共生福祉会福島美術館	13:00 石版を作ってみよう・使ってみよう 地産の森ミュージアム
13:00 生き物のふしぎにふれてみよう 19:00 仙台市立自然史博物館×仙台市八木山動物公園×みちのく博物館	13:00 体験!文化財レスキュー 東北学院大学博物館
13:00 おめでたい履帯を合羽作りで染めてみよう! 17:00 東北学院大学附属工芸館×共生福祉会福島美術館	11:00 シュワシュワ発泡入浴剤を作ろう! 16:00 スリーエム仙台市立自然史博物館
13:00 履帯を持ち上げてみよう・履帯に紙を入れてみよう 19:00 東北学院大学附属工芸館×共生福祉会福島美術館	11:00 土器の図みはどうしてできるの? 18:00 仙台市立文学館

※「履帯の広場」ミュージアムグッズショップは会期中常時開催しています

★ プログラムの最新情報は、ウェブサイトまたはスマホアプリをご覧ください。
ウェブサイト「見聞録」www.smma.jp
スマホアプリ「ミュージアムに行こう」

日程表 12月18日(金) 10:00-15:00 仙台市八木山動物公園
12月19日(土) 10:00-15:00 ユースタック2号館(仙台市青葉区)にて「履帯」テーマと、おもしろいワークショップを開催します。
主催:こどもびろりプロジェクト(www.kodomohikari.com)

実績 RESULT

東北学院大学博物館入館者数一覧 ^{2015年}
()内は前年比 施設見学の中・高校一覧

月	開館日数	有料入館者数	無料入館者数	小計	開館からの延べ人数
4	25	9	197	206	7,955
5	23	12	184	196	8,151
6	26	17	335	352	8,503
7	26	25	320	345	8,848
8	20	18	132	150	8,998
9	22	4	123	127	9,125
10	27	6	323	329	9,454
11	23	7	175	182	9,636
12	22	9	32	41	9,677
1	23	9	26	35	9,712
2	21	3	34	37	9,749
3	22	9	159	168	9,917
合計	280	128 (-33)	2,040 (+170)	2,168 (+137)	

	学校名	月 日	人数
1	桃生中学校 2年	4月15日(水)	8
2	福島県白河市立白河第二中学校 2年	4月16日(木)	5
3	仙台高校 2年	4月23日(木)	101
4	富谷第二中学校 2年	4月23日(木)	5
5	山形県東根市立第二中学校 2年	5月20日(水)	21
6	福島県相馬農業高校 2年	5月27日(水)	21
7	福島県相馬東高校 1年	5月28日(木)	81
8	福島県福島成蹊高校 2年	6月11日(木)	93
9	白石市立福岡中学校 3年	7月2日(木)	18
10	山形県羽黒高校 2年	7月13日(月)	79
11	名取北高校 3年	7月28日(火)	9
12	盛岡大学附属高校(特進科)1~3年	8月4日(火)	19
13	岩手県大東高校 2年	8月6日(木)	12
14	福島県若松第一高校 2年	9月3日(木)	82
15	福島県立光南高校 1年	9月15日(火)	27
16	石巻市立稲井中学校 2年	10月6日(火)	3
17	私立盛岡中央高校 2年	10月26日(月)	36
18	築館高校 2年	10月28日(水)	8
19	私立盛岡中央高校 2年	11月2日(月)	36
20	山形県新庄市立八向中学校 3年	11月12日(木)	18
21	山形県最上町立最上中学校 3年	11月12日(木)	10
22	山形県新庄市立日新中学校 3年	11月13日(金)	14
23	山形県山本学園高校 1年	11月17日(火)	5
24	私立盛岡中央高校 2年	11月30日(月)	36
25	村田高校 1年	12月10日(木)	23
26	第一学院高校仙台キャンパス	3月1日(火)	23
27	福島東稜高校	3月9日(水)	30
	件数(±0)		823 (-164)

無料開館日入館者数

1	創立記念日	5月15日(金)	3名
2	学部オープンキャンパス	6月27日(土)	113名(+4)
3	大学祭	10月16日(金)~18日(日)	121名(+4)
4	ホームカミングデー	10月24日(土)	6名
5	東北文化の日	10月31日(土)	5名
6	公開クリスマス	12月18日(金)	1名
7	卒業式	3月24日(木)	7名

授業等での博物館利用人数

月	授業	人数	研究会	人数	資料整理	人数	利用回数	総人数
4	5	71					5	71
5	6	68					6	68
6	15	159					15	159
7	8	123					8	123
8	0	0					0	0
9	5	47					5	47
10	15	130					15	130
11	8	47					8	47
12	7	57					7	57
1	9	65					9	65
2	0	0					0	0
3	0	0					0	0
計	78 (+11)	767 (-134)	0	0	0	0	78	767

団体見学

- 5月20日(水)
トッパン友の会ウォーキング同好会 23名
- 6月18日(木)
岩手県黒沢尻北高校PTA 14名
- 8月1日(土)
榴ヶ岡高校希望者(保護者含) 30名
- 8月3日(月)
サマーカレッジ参加者 22名
- 10月8日(木)
全国大学史資料協議会・研究会 38名
- 10月13日(火)
石名坂老人クラブ 8名
- 10月29日(木)
TGキャリアプロジェクト 66名
- 11月20日(金)
全国大学博物館学講座協議会東日本部会 38名
- 3月31日(木)
学都仙台バスツアー2016 93名
見学者数 332名

東北学院大学博物館運営委員会の開催

東北学院大学博物館運営委員会は、第一回を平成27年5月14日（木）（8号館第2会議室）、第二回を平成27年11月26日（木）（5号館第3会議室）に開催した。

第一回委員会の議題は、平成27年度事業計画（案）について・平成27年度学芸研究員採用（案）について・平成27年度無料開館日（案）について等であった。第二回委員会の議題は、平成28年度事業計画（案）について・平成28年度予算（案）について等であった。

平成27年度博物館運営委員会委員名簿

博物館長	辻 秀人（文学部歴史学科教授）
文学部長	村野井 仁（文学部英文学科教授）
学務部長	千葉 昭彦（経済学部経済学科教授）
図書館長	中川 清和（教養学部情報科学科教授）
総務部長	斎藤 信二
歴史学科長	政岡 伸洋（文学部歴史学科教授）
経済学部	仁昌寺正一（経済学部経済学科教授）
工学部	櫻井 一弥（工学部環境建設工学科教授）
教養学部	津上 誠（教養学部言語文化学科教授）

職員紹介

館長	辻 秀人	文学部歴史学科教授
学芸員	加藤 幸治	文学部歴史学科准教授
	青村 光夫	研究機関事務課係長
事務職員	尾木恵美子	研究機関事務課課長補佐
学芸研究員	熊谷 明希	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士後期課程
	遠藤 健悟	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士後期課程
	小山 悠	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程修了
	安保 智	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	砂金 春奈	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	佐藤 由治	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程
	森 千可子	大学院文学研究科 アジア文化史専攻博士前期課程

交通案内



- 地下鉄「五橋駅」下車、
愛宕上杉通を南方向に徒歩5分

平成27年度(2015) 東北学院大学博物館年報 vol.7

編集 東北学院大学博物館
発行日 平成29年1月31日
印刷 株式会社ユーメディア

モノを学ぶ、モノを活かす

東北学院大学博物館は、本学における最先端の研究成果を広く社会に伝えることを目的とし、二十九年十一月に開館しました。

当館が当面対象とする分野は、歴史学・考古学・民俗学で、貴重な文献や考古・民俗資料を数多く展示しています。

また、大学で開講されている博物館館内実習等における学びの場として活用されています。これらの実習では、教員・学芸員の指導のもとで館蔵資料を実際に扱いながら、資料の調査・保存・展示方法を学ぶなど、学芸員の実践的な技術鍛錬が行われています。



東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1
TEL 022-264-6920 FAX 022-264-6917